

徒然なるままに…13 - 校内研②(理論研)の巻

新学期が始まり、3週間が過ぎようとしています。少しずつ、学級が落ち着き、先生方それぞれの色の授業になりつつあるのではないのでしょうか。とはいえ、4月の慌ただしさは否めません。私の方は、21日の授業の準備に、私事が重なり、目眩がするほどでした。



そんな時期に、広島大学 木村博一先生にご講話いただきました。問いのつくり方・仮説の設定・検証の方法・まとめ方と、問題解決的な学習の展開の仕方を、事細かに、具体的に話してくださいました。先生方にとっても、実際の学習過程に沿って、授業づくりをイメージすることができたのではないのでしょうか。

今回の研修会を次の2点を取り上げて、私なりのまとめにしたいと思います。

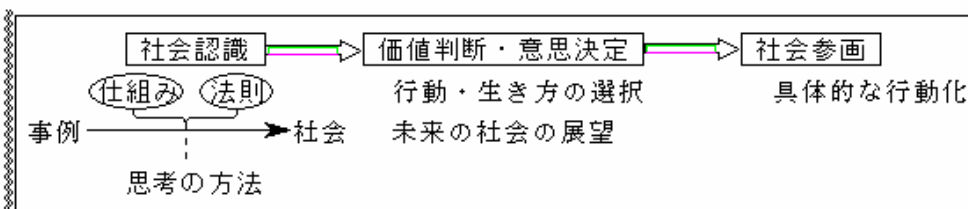
1点目は、教材-内容の兼ね合いです。取り上げたい教材から、教えるべき内容を見出すのか、それとも、教えるべき内容から、ふさわしい教材を見つけるのかというと、どちらの場合も考えられるでしょう。

私の場合をお話してみましよう。テレビを見たり、本を読んだりしたときばかりでなく、日常生活の至るところで、「おもしろい。」「なるほど。」と感じる素材に出会います。それが教材です。おもしろいと思わせる教材の条件は、

- ① 矛盾をはらんでいるもの。
- ② 意外性を持っているもの。
- ③ ある事象が現在・未来の形として表れたもの。
- ④ 地域や子どもに密着しているもの。

といったところでしょうか。おもしろいと思うと、使いたくなります。そこで、その素材は、どの単元で使えるか、どんなことが教えられるかと考えて、暖めておくこととなります。いつも、そんなことばかり考えているのが、社会科の習性なのでしょう。そうやって集めたものの中から、ひょっこり使える教材がぎっとあるはずです。

2点目は、社会科授業の構造です。第4学年「ごみのしまつ」の単元を例に考えてみましょう。まず、事例を通して、法則や仕組みから社会をとらえる社会認識の段階です。具体例では、ごみ処理の仕組みから、分別収集するわけをとらえたり、大量生産・大量消費という私たちの生活様式から、ごみが増えるわけをとらえたりする学習が考えられます。ここでいう法則・原理は、社会認識すべき内容の構造であり、先日お話しした思考の方法となる「思考スキル」を示しています。次に、社会の現状をとらえた上で、どう行動すべきか、どう解決することが望ましいかと判断、決定する段階です。具体例では、私たちの生活スタイルからごみが増えるわけをとらえた上で、ごみを減らすための方策を考えたり、選択したりする学習が考えられます。そして、実際に行動する社会参画の段階です。具体例では、実際にリサイクル活動に取り組んだり、ごみ減量を呼び掛けるポスターをつくったりする学習が考えられます。この構造を図にしたものが、前頁の〈図1〉です。このように、社会科学習展開は、仕組みや法則から社会が分かり、それに基づいて、よりよい社会を創るための方策を考え、選択・決定するという構造にな



〈 図1：学習展開の構造 〉

っている
といえる
でしょう。

なかなか
かゆく
りとお話

ができない中で、何とかして、先生方と学びを共有化したいと思い、今年度も、引き続き、「徒然なるままに」書かせていただきます。もしかしたら、分かりにくい内容になるかもしれませんが、懲りることなく、付き合ってください。昨年度も書かせていただきましたが、多くの先生が読んでくださったり、声を掛けてくださったりするんですよね。本当にありがたいことです。授業づくりや社会科について、困ったことや相談などありましたら、いつでも声を掛けてください。いっしょに考えましょう。(機嫌が悪いこともありますが、臆することなくお願いします。)



もうすぐゴールデンウィークです。日頃の疲れを癒しつつ、楽しみたいものです。旅行で他の町に行って、高速道路を走っていて、美容院で雑誌を読んでいる、新聞やテレビを見ていて…その中で、何か一つ、「!」や「?」を見つけてみてください。もしかすると、意外な教材と出会うかもしれません。

校長室で…生活科よもや話

澤田先生が木村先生の話をもっともまにまとめていただきました。

生活科は、社会科と違い、活動で何が学べるのかである。問題解決学習とはならない。活動が中心であり、より多くの「知的な気付き」が持てるようにすることが大切である。

例えば、「カレーの中になにを入れるでしょうか。」と発問する。それぞれを比較し合うと様々な意見が出てくる。エビ、肉、ちくわ?。「なぜ、ちくわなのかな。」「お父さんの健康のため、ちくわにしています。」家庭によって、違うことに気付く。教師は、型にはまった教え方をしてはいけない。いろいろな子どもがいて生きていて良かったと思える授業にしていく。コミュニケーションをとり、違いに気付かせる授業づくりをする。

生活科では、どのように思考させていけば良いのだろうか。分からないことばかりである。楽しい活動後に、気付きが共有できるように深めさせたい。生活科は、教師と子どもと一緒に活動することから学んでいくので、どのようにして活動を仕組み、単元を組み立てていくのか考えていきたい。その体験から、疑問が生まれたら、さらに学習が深まっていくと思う。

社会科と共通していることは、ひらめきやセンスを生かすことであり、観点を明確化することだと思ふ。教材を発掘するアンテナをどのように働かせたらよいか、社会科の授業づくりを研究しながら掘んでいきたい。